

卓上探偵団DEKA

黒田尚吾

体験版



瞳に映る虹

Rainbow eyes

現代

場所: アメリカ、美術館

「瞳に映る虹」

プレイ人数：
1～4人

対象年齢：
15歳以上

プレイ時間：
20分

本作はプレイヤー全員が、歴史の裏で様々な事件を解決してきた卓上探偵団のメンバーとなり事件解決のために力を合わせる、協力ミステリーゲームです。

協力ゲームですのでプレイヤー同士が敵対（嘘をついたり、攻撃しあったり）する要素はありません。

また、あるストーリーに沿って推理を進めていく形式ですので、一度内容を知ってしまうと、次回以降はゲームを楽しめなくなります。

最終的に選択記述式の設問が出てきますのでその問いに答えたのちエンディングと称号を与えられます。

得点	称号
2点以下	Detective ディテクティブ（探偵）
3点	Dog-nosed ドッグノーズ（犬の鼻）
4点	Hawk-eyed ホークアイ（鷹の目）
5点	Clairvoyant クレヤボヤンス（千里眼）
6点	Master detective マスターディテクティブ（名探偵）

ゲームは本書を読み進めていけばそのまま遊ぶことが出来ます。皆で話し合い協力して選択肢を選び、推理の答えを導き出しましょう。

裏面に本作のタイトルが書かれたカードの束をそのままテーブルに置いたら、本書を読み進めゲームを開始します。

まずは物語の冒頭を適当なプレイヤーが読み上げてください。

瞳に映る虹

■冒頭

「今世紀最大の秘宝「虹の瞳」を今晚、頂戴いたします。
怪盗【ラットテール】」

この手紙を最初に見つけたのはアメリカ合衆国有数の美術館に勤務する【美術館館長】だった。美術館の郵便受けに投函されていたのを16：30頃発見したのだ。手紙に郵便局の押印はなく、監視カメラには16：00に黒いコート姿で帽子を目深にかぶった人物が手紙を投函している様子が映っていた。

「虹の瞳」はモンゴルに落下した隕石から発掘された宝石だ。大きさは直径2.5cmほどで、球体にカットされている。普段は白みがかかった乳白色の独特の色彩を放ち、太陽光に当たると七色に光る特性を持っていた。その希少性や空から降ってきた宝石ということから「虹の瞳」と呼ばれている。

普段は【富豪】がコレクションとして保管している「虹の瞳」を【美術館館長】の願いで特別に展示していたのだ。それを狙う通称【ラットテール】は、数ある美術品や宝石を華麗に盗み出す大怪盗で、世界中の警察や組織が血眼になって追っている人物であり、きみ達卓上探偵団も例外ではない。最近ではその名をかたった模倣犯も多く出現していたが、そのどれもがお粗末なものばかりだった。

もちろん警察にも面子がある。この手紙が投函されたこ

とで、通報の1時間後には【警察署長】が部下を引き連れて到着し、周辺の警備を固めた。そして【ラットテール】と因縁のある卓上探偵団の面々もこの場に呼ばれたのだ。17:00には美術館は閉館し、館内には美術館の関係者と警察、そしてきみ達だけとなった。

「虹の瞳」は美術館の中央にある特別ホールに展示されていた。床と壁、柱は大理石でできており、窓と高さのある半球形の天井にはステンドグラスが張り巡らされていた。ホール中央のガラス張りのケースの中に「虹の瞳」が座しており周囲にも警官が配置されている。窓の開閉は不可能な構造になっており、部屋の出入口にも警官が目を光らせていた。さらに美術館で部屋を移動するときはあるごとに、警官によるボディチェックが行われる徹底ぶりだ。

ロビーに配置されたソファーに腰掛け、待機している、かっぶく 恰幅の良いチョビ髭の50代男性【美術館館長】は「この状況で「虹の瞳」を盗むことは不可能だろう！」と大声で笑った。

ブランド物のコートを着た20代男性【鑑定士】が「犯人がトリックや魔法を使って、宝石を偽物とすり替えた、し・て・も！……私がすぐに鑑定いたしますよ」と角ばったサングラスをくいとあげる。

おしゃれな薄茶色のスーツを着た40代男性【富豪】は「この状況を利用して【怪盗ラットテール】を捕まえれば我々はヒーローですよ！」と、宝石がたくさんついた指輪をは

めて、手をたたいた。

ブルドックのような顔をした【警察署長】は「見てください、この屈強な戦士……いや警官たちを！ 私が直々に鍛えた精鋭たちです。お前たち、気合い入れて行けよ！」と太い腕をぶんぶん振りながら部下たちを鼓舞している。

きみ達は苦笑いしながらそれらの会話を聞いていたが、確かに、この警備の中「虹の瞳」を盗み出すことは不可能だ。時間がない今、下手に移動させるより、この場所に腰を据え、待ち構えたほうが良い。

そんな中、時間は刻々と過ぎ、23：30になっても何事も起こらず、【怪盗ラットテール】は恐れをなして逃げ出したのだ、と関係者はロビーでくつろぎながら余裕の笑みを浮かべていた。

しかし時計の針が夜中の0時をさしたとき、ガシャーン！という大きな音が特別ホールから響く。きみ達と関係者はソファから飛び上がり現場に急行した！ ホールに到着すると、ぐしゃぐしゃに潰れたガラスケースとステンドグラスの破片が、大輪の花のように大理石の床を彩っていた。上を見上げると天井のステンドグラスが砕け、大きな穴が開いている。ホールを警備していた警官たちも動揺を隠せないようだ。

「おいおい、これが【ラットテール】の最後とは……あっけないな」

そうつぶやく【警察署長】の目線の先……腰に長いロー

プをつけた黒ずくめの男が、砕けたガラスの上につぶせ
で転がっていた！



■ 探偵決め

あなたたちは探偵です。自由に名前や性格、見た目を決めてください。ただし、友人や知り合いにCIA（アメリカ中央情報局）捜査官、MI6（イギリス秘密情報部）捜査官、FBI（連邦捜査局）捜査官がいることが望ましいです。

ゲームの開始

■ 00 : 10

【富豪】はぐしゃぐしゃにつぶれたガラスケースを見て叫ぶ。
「な、な、なんということだ！ 「虹の瞳」は無事なのか！？
傷でも入ってみようものなら、凄まじい損害だ！ おい！

【鑑定士】！ 今すぐ傷がないか鑑定できるか！？」

【鑑定士】はこの事態におびえているのか、ガタガタ震えながら答えた。

「わ、わかりました。この美術館には修繕室がありましたよね？ そこなら設備もそろっていますし、詳細な鑑定が可能です！ でも警官を鑑定室の入口に配置して見張っててください、盗人の仲間がいるかもしれない！」

【富豪】が床に無防備に転がっている「虹の瞳」を【鑑定士】に手渡すと、近くにいた警官ふたりと共に修繕室へ向かった。

ホールに残ったきみ達は、調査を開始することにした。

- ・ 怪盗は本当に死んだのだろうか？
- ・ 「虹の瞳」は無事なのか？

これらを念頭に置いて、まずは思い当たるところから調べるとしよう。

下記の中から2カ所を調査することが出来ます。山札から下記のカードを裏向きのまま取りだし3枚並べます。調査したい箇所を2カ所選び表面の内容を確認してください。そこには事件に関するヒントが書いてあります。全員で内容を確認してから、次のカードを調査することができます。

調査しなかったカードも最終的な回答を答える前に、得点を支払う事で調査することが出来ます。

- | | |
|---|---------------|
| 1 | 床に倒れている黒ずくめの男 |
| 2 | 屋根 |
| 3 | 修繕室の様子 |

2カ所を調査したら次の01：00の項に進んでください。

■ 01 : 30

黒ずくめの男は数人の警官と一緒に病院に搬送された。「あんな薄いステンドグラスの上に乗れば、割れて落ちてくることなど、すぐわかります。よほど焦っていたんでしょうな！　ともあれ、黒ずくめの男が怪盗【ラットテール】の正体だったのですよ！　がっはっはっは！」

【警察署長】は腕組みをしながら大きく笑った。すると奥から【鑑定士】がニコニコしながら警官を引き連れて「虹の瞳」を手に、やってきた。

「皆さん、ご安心ください！　「虹の瞳」には傷一つありませんでした！」そう高らかに宣言しサングラスをくいと上げる。彼は部屋を出る時もボディチェックを受け、また部屋にも何の異変がなかったことを付け加えた。そして【富豪】に「虹の瞳」を手渡した。

きみたち以外の関係者は事件は解決したと大いに喜んでいる。果たしてそうなのだろうか？　きみ達と一緒に喜ぶふりをして、彼らに話を聞くことにした。

下記の中から 3 カ所を調査できます。山札から下記のカードを裏向きのまま取りだし 4 枚並べます。調査したい箇所を 3 カ所選び表面の内容を確認してください。

4	【富豪】	6	【美術館館長】
5	【鑑定士】	7	【警察署長】

3カ所を調査したら次の04 : 00の項に進んでください。

■ 04 : 00

外は暗く夜明けまであと少しといったところだろう。きみ達以外の関係者は皆、黒ずくめの男こそ怪盗【ラットテール】で「天井から侵入しようとしたが、強度の弱いステンドグラスの上に乗っていたため天井が落ち、落下して気絶した」のだという結論を導き出した。しかし、いくつか引っかかる点がある。

きみ達は各諜報機関に顔が利く。こんなこともあろうかと、事件が起こった直後、各諜報機関に連絡を入れていた。むろん組織によっては代償を支払うが、この情報網を使わない手はないだろう。幸いにも関係者はまだ事後処理のため美術館で警察に提出する書類を書いている。

下記の中から2カ所を調査できます。山札から下記のカードを裏向きのまま取りだし3枚並べます。調査したい箇所を2カ所選び表面の内容を確認してください。

- | | |
|----|-------------------------------|
| 8 | CIA 捜査官に【怪盗ラットテール】の情報を聞く |
| 9 | MI6 捜査官に天井から落ちてきた黒ずくめの男について聞く |
| 10 | FBI 捜査官に関係者の最近の動向を調べてもらう |

2カ所を調査したら決断の項に進んでください。

■ 決断

早朝5：00。調査できる場所はほぼ調査できたようだ。

あなたたちは相談し、自らの推理をまとめ、行動しなければならない。

選択式の問題には下記の中から正しいと思うものに丸を入れてください。

記述式の問題には（ ）の中に答えを入れてください。

この結果によりエンディングが変化します。

またこの決断の間に最終的な勝利点を1点ずつ支払う事で、まだ見ていない各項目の調査を3回まで行うことができます。

記入が終わったらエンディングの項に移動してください。

設問 1. 誰が【怪盗ラットテール】なのか？

(2点)

- ・ 黒ずくめの男
- ・ 【美術館館長】
- ・ 【富豪】
- ・ 【鑑定士】
- ・ 【警察署長】
- ・ 【警察署長】の部下
- ・ その他のだれか

設問 2. 「虹の瞳」は今どこにある？

(3点)

()

設問 3. 黒ずくめの男はなぜ天井から落ちてきた？

(1点)

()

STOP !

ここから先はエンディングとなります。全ての項目を
記入したら次のページをめくってください。

エンディング

設問1. の答えによりエンディングは分岐します。

プレイヤーが選択した設問に対応したエンディングを読み進め、その後、得点計算を行ってください。

また下部には物語の真相が記されています。

設問1. 誰が【怪盗ラットテール】なのか？ の答えが

- ・【鑑定士】なら→エンディング Aへ
- ・上記以外なら→エンディング B (p21) へ

■ エンディング A

きみ達が推理をまとめ、美術館内を探すも【鑑定士】はどこにもいない。聞くと先ほど何食わぬ顔でこの場所を後にしたのだという。今ならまだ間に合うかもしれない。きみ達は、まだ日が昇っていない美術館の外に飛び出した！

下記を公開していた場合対応するエンディングを上から順番に読み、その後 A-5 へ

- ・「8 CIA 捜査官に【怪盗ラットテール】の情報を聞く」を公開していたら→エンディング A-2 (p15) へ
- ・「9 MI6 捜査官に天井から落ちてきた黒ずくめの男について聞く」を公開していたら→エンディング A-3 (p16) へ
- ・「10 FBI 捜査官に関係者の最近の動向を調べてもらう」を公開していたら→エンディング A-4 (p17) へ

■ エンディング A-2

美術館前の薄暗い明け方の公園に人影が見えた。よく目を凝らしてみるとボロボロの服を着たあの老人と【鑑定士】が、文字通り戦闘を行っていた！ きみ達は走り現場へ向かう。

CIA 捜査官の老人は杖を自在に操り打撃を連続で与え【鑑定士】を追いつめていたようだった。老人の向けたステッキ先端から刃が発射されるも、それをかいくぐり一瞬のスキを突く形で【鑑定士】が老人の顎に右ストレートを放った！ 老人は吹っ飛び、ゴミ捨て場に受け止められる形で倒れる。近づいてきたきみ達に気づいた【鑑定士】は、急いでその場から逃走をはかった！

老人のもとに駆け寄ると「ううう、年甲斐もなく頑張るものではないな……ワシのことはいいから、あいつを追いかける。本物の【ラットテール】なんぞ、そうそう拝めんど。ワシがやるべきことは、やったしのう……いててて」

きみ達は魚の骨やら飲みかけのジュースやらのせいでべとべととしている老人を公園のベンチに座らせると【鑑定士】の後を追った。彼の回収はCIAがやっておいてくれるだろう。

■ エンディング A-3

美術館前の公園を抜けた先、駐車スペースに停めてある大型バイクに【鑑定士】がまたがり、アクセルをふかして発進するのが見えた！ このままでは逃げ切られてしまう！

するときみ達の目の前に1台のバイクが止まった。ぴったりと体にくっつく女性用ライダーズーツに見とれているとヘルメットのフェイスガードが上がる。「乗って！」と声を荒げたのは美人女性警官だった。ひとりの探偵がバイクの後部に座り、ほかの探偵は自分たちの車で追う旨を彼女に伝えた。それと同時にバイクは前輪を持ち上げ急発進し【鑑定士】の後を追う。

「潜入捜査中なんだけど、上からこっちに加勢しろって連絡があったのよ。これで、もし【ラットテール】を捕まえられたら、今度はこっちが1つ貸しだからね」

朝焼けの道路を爆速で走る2台のバイク。MI6捜査官の美人女性警官はオートマチック拳銃を懷から取り出し、探偵に渡した。

「前のバイクのナンバープレートを撃って！」

探偵は走るバイクに向かって弾丸を1発発射し、見事ナンバープレートに命中させた！

「ひゅう、やるう」

彼女はゆっくりと速度を落とし、道の路肩にバイクを止める。「あんまり深入り出来ないからね、あんたとは、ここでお別れ。いい腕だったよ、探偵さん」彼女はバイクを180度反転させ、来た道を猛スピードで戻っていった。もう少しすれば、ほかの探偵が乗った車と合流できるだろう。

■ エンディング A-4

きみ達は地図を見ながら車で移動していた。先の諜報機関が【鑑定士】と接触の際、GPS発信機を取り付けていたのだ！ GPS表示が情報端末の地図上を高速で移動しており、きみ達はその軌跡を追う。すると、不意に探偵の携帯電話の着信ベルになる。液晶には非通知と記されているが、その電話をとる。

「きみ達の前を走るバイク……【ラットテール】で間違いないか？」

不愛想に、必要最低限の質問をしてくる組織に、きみ達は心当たりがあった。一瞬答えていいかどうか迷ったが、きみ達はYESと答える。

「情報協力、感謝する。後は我々に任せたまえ」

電話は一方的に切れ、きみ達の真上を数台の黒いヘリコプターが通り過ぎ、ライトを数回光らせきみ達に合図すると、港に向かって飛んでいった。丘を越えると肉眼で海が見え、その向こうには巨大な港が横に広がっている。別の港に続くルートには黒い特殊車両が列をなして移動しているのが見えた。

■ エンディング A-5

諜報機関が【鑑定士】との接触の際取り付けたGPS発信機は、きみ達や各諜報機関をこの街の港に集めるに十分な効果を発揮していた。

この街の港には多くの巨大船が並び、今もなお様々な国や地域に荷物を運ぶため入出航を繰り返している。【鑑定士】につけられたGPSは1台の出航直前の巨大なコンテナ船籍と重なった。CIA、MI6、FBIの関係者がその船舶に乗り込み、港や近隣の倉庫、各他の船舶に異常がないか調べ始めた。

設問2. 「虹の瞳」は今どこにある？ の答えが

- ・【鑑定士】の目に義眼の代わりにはめ込まれていると答えた場合→エンディング A-6 へ
- ・上記以外の答えだった場合→エンディング A-7(p20) へ

■ エンディング A-6

きみ達はふと思い立って、近隣に住む海洋研究者に連絡を入れた。

しばらくして、本命の船舶は予定通り港から離岸し出航する。あの中では多数の諜報員が、GPSの所在と【鑑定士】……いや【ラットテール】を今もなお探していることだろう。

きみ達は陸に残り、もう一つの可能性にかけていた。もし【ラットテール】がGPSの存在に気づいていたら、どんな行動をとるだろう？ 彼はいつも人の裏をかいてくる。当てが外れ船上にいるのであれば、きっとどこかの諜報機関が【ラットテール】を捕まえることだろう。

きみ達は車で移動し、港から少し離れた堤防へやってきた。

先ほど連絡した海洋研究者から、この辺りの潮の流れについて教えてもらったのだ。港の方から流れる潮は、勢いをつけてこの堤防にぶつかるようになっていた。

きみ達は朝日が照らす海面を眺める。しばらく、そうしていると……

きらきら光る海の中から、ずぶ濡れの【鑑定士】が現れた。【鑑定士】は君たちを見つけると、泳いで堤防のへりまでやってきて、手を伸ばした。サングラスも波にさらわれたのか、かけていない。「海から引き上げてくれないか、この辺りは足場が悪い」【鑑定士】がそう言い、きみ達のひとりが手を差し伸べると、彼は素直に手を握り陸に上がった。

朝日に照らされる彼は嬉しそうに自分の右目を指さし「僕が持っている「虹の瞳」は偽物かもしれないよ？」と言った。しかし、きみ達は「それはない」と即答する。【鑑定士】はきみ達が「今ここにある「虹の瞳」が偽物でなく、本物である」と言い切ったことが不思議なようだった。彼は思案したのち不意に右目に指を突っ込み、目玉を……いや「虹の瞳」を取り出し、それを見る。そして顔を伏せ、小さく肩を震わせた。

彼は海面から顔をのぞかせた自分の右目が、太陽光に照らされ七色に光っていたところを想像し、我慢できず……つい大声で笑ってしまった。

END

■ エンディング A-7

「虹の瞳」を犯人がどこに隠したのか分からないまま、船は予定通り港から離岸し出航する。しかし、この船にはきみ達のほかに、多数の諜報員が乗り込んでいた。

きみ達はGPSの所在と【鑑定士】……いや【ラットテール】を探すも、乗り捨てられたバイクとGPSのみが発見され、彼と「虹の瞳」が発見されることはなかった。

船の上から、朝日を眺める……今頃「虹の瞳」は太陽光に照らされ、犯人のもとで七色に光っていることだろう。きみ達と【ラットテール】の戦いはまだまだ続くようだ。

END

■ エンディング B

きみ達が推理をまとめ、関係者を集めて推理を披露する……が、数人から推理の穴を指摘され、検証の結果それらの推理は不成立に終わった。

やはり、天井から落下してきた黒ずくめの男こそ【ラットテール】なのだと警察が結論付け、事件は幕を閉じる。

あたりを見回すと【鑑定士】がいつの間にかいなくなっていたが、おそらく長い拘束で疲れたのだ、犯人が捕まったということで家に帰ったのだらうと、と関係者は笑い、その場は解散となった。

警察は翌日「【ラットテール】を逮捕した」と、マスコミに大々的に発表し世間を賑わせた。しかし数日後、同美術館の別の美術品が盗まれ「間抜けな警察諸君。【ラットテール】はこの通り捕まっていない、もっと楽しませてくれたまえ」という手紙が現場に残される。連絡のつかない【鑑定士】を除く関係者全員は顔を真っ赤にして歯噛みするのだった。

END

設問 1. 誰が【ラットテール】なのか？

(2点)

・【鑑定士】

設問 2. 「虹の瞳」は今どこにある？

(3点)

(【鑑定士】の目に義眼の代わりにはめ込まれている)

設問 3. 黒ずくめの男はなぜ天井から落ちてきた？

(1点)

(【鑑定士】に宝石を鑑定させるきっかけを作るため、偽の協力を持ち掛け、即効性の睡眠薬を飲ませることで薄いステンドグラスから落下するよう仕向けた)

義眼の怪盗【ラットテール】は厳重な警備されている「虹の瞳」を盗み出すため大がかりな計画を立てた。

まず【鑑定士】の名をかたり、【美術館館長】と「虹の瞳」の所有者である【富豪】に近づき信用を勝ち取る。そして、その構成成分を分析しレプリカを制作した。そして、その宝石が展示される事を聞きつけると、そのレイアウトを任せてほしいと申し出た。

その後、宝石を盗むよう街のごろつきをそそのかして、睡眠薬を盛り展示されている宝石の上に落下するよう仕向ける。

作戦は成功し落下した街のごろつきは「虹の瞳」のケースを壊し、【鑑定士】が別室で鑑定するような流れを作った。宝石の大きさは直径2.5cmほどで、球体にカットされており、普段は白みがかった乳白色をしている。【鑑定士】は宝石が持つその形体を利用して「虹の瞳」を鑑定するふりをし、もともと義眼として仕込んでいたレプリカと本物をすり替え、本物を眼にはめ込んだのだ。そうすることで、怪盗【ラットテール】は厳重なボディチェックをすり抜け、宝石を館外に持ち出すことに成功したのだ。

